

# 口頭発表 第1日

2月8日(木) 14:55 ~ 16:10

## 口頭発表の記録について

### <口頭発表の録音・録画・写真撮影について>

自己学習に使用する場合であっても、録音・録画・写真撮影することはできません。自校の記録等として参加者が録音・録画・写真撮影を希望する場合は、司会に申し出てください。

## 口頭発表

2月8日(木) 14:55~16:10 A会場 1階 大研修

### <提案のポイント>

① 14:55~15:25

**特別支援学校 特別支援教育 授業改善**  
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充実事業]

特別支援学校における授業改善プロジェクトの取組  
～各教科等を合わせた指導「日常生活の指導」について～

秋田県教育庁特別支援教育課 指導主事 小山 高志

特別支援学校における各教科等を合わせた指導の授業力向上を目指した秋田県の4か年計画の取組である。最終年度に当たる今年度は「日常生活の指導」を取り上げ、授業づくりの基礎・基本に基づく実践の充実と、各校の指導の中心的役割を担う人材の養成を目的に取り組んだ。提示授業や各実践事例をもとに要点を整理し、教育専門監とも連携しながら導き出した「日常生活の指導」を評価・改善する視点について提案する。

② 15:40~16:10

**小・中学校 教科指導 授業改善**  
[能代市中堅教員研修会]

学び合いを深め、学ぶ意欲を高めるための教師の関わり方について  
～能代市中堅教員研修会の研修成果の発表～

能代市教育委員会	指導主事	安部	芳幸
能代市立東雲中学校	教諭	小宅	淳
能代市立能代南中学校	教諭	原田	大
能代市立二ツ井小学校	教諭	青山	功基

能代市では今後の本市の教育水準を維持していくために、平成26年度から中堅教員研修会を行っている。平成29年度は、昨年度の中堅教員アンケートから見えてきた「求められる教師像」を基に、児童生徒の「学習意欲」と「成績」の相関関係に着目して研修テーマを設定した。「学習意欲」を高めるための「教師の関わり方」を改めて中堅教員という立場で見直し、「教師の力」を形にするための授業検証や話し合いを積み重ねてきた。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55~16:10 B会場 1階 中研修室

### <提案のポイント>

学校評価システムにおいては教職員が積極的に参画することにより、学校組織が多様な意見から質の高い教育活動を生み出し、PDCAサイクルが機能していく。モチベーションの高まりから資質・能力の向上が図られる。人事評価システムの目的に立ち返っても、それは同様に「教職員の資質・能力の向上」「学校の活性化」である。学校教育に対する期待や抱える課題が一層複雑化・多様化していくことが予想される社会の中で、これらあきた型学校評価システムを企業経営理論の導入という観点で考えてみる。

① 14:55~15:25

小学校 学校経営  
[秋田大学教職大学院研修]

学校組織マネジメントにおけるあきた型学校評価システムに関する一考察

横手市立横手北小学校 教頭 木村 司

② 15:40~16:10

小学校 学校経営  
[秋田大学教職大学院研修]

学校や地域の実態に即した危機管理  
～マネジメントの手法を取り入れた安全教育と安全管理～

鹿角市立大湯小学校 教頭 伊藤 智

大学院では、「東日本大震災を契機とした自然災害への危機管理に関する一考察」のテーマのもと、安全教育や安全管理に取り組むための効果的な施策等について研究した。学校現場に戻って、実際に実践や検証をしていくに当たり、学校や地域の実態に即した安全教育や安全管理が必要であることを強く感じた。本校は、保護者や地域の方々が学校にとっても協力的である。これを強みとした、保護者や地域、関係機関と連携した取組を紹介する。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55~16:10 C会場 1階 小研修室

### <提案のポイント>

中学校理科において放射線の授業をする際に、どのようにして観察・実験を行うかが問題となる。本研究により簡易な器具で環境中の放射性物質であるラドンを捕集し、それを放射線源することで、中学校理科における放射線教育の有効な教材として使用することができることを明らかにした。授業実践を通して、生徒が放射線の危険性について理解し、放射線の利用方法や性質に対して興味・関心を示すようになったことが明らかになった。

① 14:55~15:25

中学校 理科  
[秋田大学大学院研修]

中学校理科における放射線の教材開発  
～環境放射線の測定を通して～

湯沢市立雄勝中学校 教諭 佐藤 美千代

② 15:40~16:10

小学校 理科  
[第50回記念全国小学校理科研究協議会研究大会・第21回関東甲信越地区小学校理科教育研究会研究大会東京大会]

自らの考えをもち、学び合いを通して科学的な思考力・表現力を育成する指導の工夫  
～「こん虫を調べよう」の実践を通して～

仙北市立生保内小学校 教諭 山部 幸信

第46回秋田県理科教育研究大会大曲仙北大会で実践した小学校第3学年「こん虫を調べよう」の授業の取組を基にまとめたものである。研究主題に迫るために、①事物・事象と豊かに関わる ②根拠のある「予想」や「考察」、目的意識をもった「観察」を行う ③学び合いを深める という三つの指導上の工夫を行った。思考ツールとしてベン図を用いたことが考えを深めるために役立った実践である。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55～16:10 D会場 1階 美術研修室

### <提案のポイント>

① 14:55～15:25

#### 高等学校 生涯学習

生涯学習講座をプラットフォームとした高等学校における地域学校協働の在り方に関する一考察  
～あきたスマートカレッジにおける実践事例からの提案～

秋田県生涯学習センター 社会教育主事 川田 貴之

県が展開する生涯学習講座のプログラムにおいて、高校生が普段の学習活動・部活動などで研鑽している成果を一般県民に対し **Output** する講座を実施した。その結果、地域学校協働活動に期待されているような学習効果が得られた。異世代交流を通じた生涯学習への興味・関心の喚起や、自分の力を地域のために発揮する意識付けを行うこともできた。高等学校のコミュニティスクール化を視野に入れた学びのスタイルを提案したい。

② 15:40～16:10

#### 小学校 道徳

児童の豊かな心の育成を目指して  
～プロジェクト・アドベンチャーと道徳の時間の関連を図った指導を通して～

県立保呂羽山少年自然の家  
主任社会教育主事 照井 幸誠

本所では、カヌー・登山・野外炊飯といった自然体験を通して、児童生徒の豊かな心の育成を目指している。今年度、宿泊利用する小・中学校の85%以上で実施している「プロジェクト・アドベンチャー(以下PA)」は、他人や集団との関わりを学ぶプログラムとして高評価をいただいている。「特別の教科 道徳」とPA活動での“実体験から学ぶプロセス”を関連させることで、より一層の教育効果が期待できると考えている。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55～16:10 E会場 2階 音楽研修室

### <提案のポイント>

① 14:55～15:25

#### 中学校 ふるさと・キャリア教育 [日教弘秋田支部研究論文入賞]

地域の教育力を活用したふるさと学習の推進  
～森林環境学習、林業作業活動・木育活動を通して～

大仙市立豊成中学校 教諭 杉山 真澄  
教諭 田中 武晴

本校では平成26・27年度に実践してきた「小・中連携」の取り組みを発展させ、その後「ふるさと教育」に力を入れて実践を重ねてきた。その中でも特に「森林環境学習」における活動を通して、本校生徒の課題とする自尊感情や自己肯定感、積極性、そしてコミュニケーション能力などを伸ばしていきたいと考え、本研究を進めることにした。充実した体験活動と、ふるさと学習を通して変容した生徒の姿について紹介したい。

② 15:40～16:10

#### 特別支援学校 教育課程

社会に開かれた教育課程編成の在り方  
～地域と目標を共有し、地域と関わり合う学習を通して～

県立能代支援学校 教諭 工藤 智史  
教諭 加藤美和子

昨年度構築した教育課程編成の仕組みを生かした実践。学校教育目標の達成に向け、地域と目標を共有した上で地域の特産や伝統工芸等を作業学習に取り入れたり、生活単元学習において、地域のイベントに参加・企画したりする授業づくりに取り組んだ。結果、児童生徒の達成感や自己有能感が得られ、学習活動へ主体的に参加する姿が育まれた。また、作業製品の質の向上、生産から販売・納品までの流れの形成等が図られ、生徒が自分で判断し作業する姿が増えた。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55~16:10 F会場 2階 授業研修室

### <提案のポイント>

① 14:55~15:25

中学校 英語  
[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

即興的に話す力を高める指導の在り方  
～「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」を通して～

大館市立東中学校 教諭 本多 牧子

本校は今年度「拠点校・協力校授業改善プログラム」の研究指定を受け、即興的に話す力を高めるための指導に研究の重点を置き取り組んできた。帯活動の中に即興的に話す活動を継続して取り入れたり、単元の中に即興性を伸ばすために効果的と思われるメモを活用したスピーチなどの言語活動を設定したりして、生徒の「話して伝える力」を鍛えてきた。まだ、道半ばではあるが、生徒の変容を紹介しつつ、本研究の成果を紹介したい。

② 15:40~16:10

小学校 外国語活動  
[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

身に付けた言語や力を活用し、伝え合う学習活動の充実  
～「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」の実践～

大館市立有浦小学校 教諭 田村 直子

今年度本校では、外国語活動の授業改善として、①児童の英語発話量の増加、②教師の英語発話量の増加、③近隣の小・中学校との連携の3点に取り組んだ。本発表会では、児童のやり取り場面を増やす工夫、教師が「オールイングリッシュ」を目指して進めた授業実践、絵本の読み聞かせ「Story Time」の進め方、外国語支援員との充実したTT、授業・単元構成の工夫等、外国語活動の授業力向上に有効だった点を報告する。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55~16:10 G会場 2階 中研修室

### <提案のポイント>

① 14:55~15:25

小学校 外国語活動  
[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

積極的にコミュニケーション活動に取り組み、自分の考えや気持ちを適切に伝え合うことができる子どもの育成  
～「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」指定校研究の実践から～

にかほ市立平沢小学校 教諭 木村 恵子

今年度仁賀保中学校と共に、上記の指定を受け、一年間全校体制で研究に取り組んできた。3回の指定校訪問では、5・6年生3学級が研究授業を行い、A I Uの町田准教授と中央教育事務所の伊藤指導主事から丁寧な指導を受けた。その成果と課題を明らかにして次の授業に生かすように研修を進めてきたことで、有意義な研究とすることができた。本校で取り組んできた「積極的なコミュニケーション能力の育成」について提案したい。

② 15:40~16:10

中学校 英語  
[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

英語で積極的に自分の気持ちや考えを表現できる生徒の育成を目指して

にかほ市立仁賀保中学校 教諭 佐々木 梓

本年度「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」の取り組みの一つとして、即興でのやり取りを授業に取り入れ、生徒同士が英語で思いや考えを表現する言語活動を充実させた。また、CAN-DOリストの活用や見直しを行った。本校及び他校種の職員の協力を得て、英語科がチームで授業改善に取り組んだことで、生徒の意欲が伸び、気持ちや考えを英語で表現できる生徒が増えてきた。その生徒たちの変容と今後の課題を提案したい。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55~16:10 H会場 2階 生活科教材製作室

### <提案のポイント>

① 14:55~15:25

高等学校 情報  
[日教弘秋田支部研究論文入賞]

自作学習ソフトウェアの活用による一斉指導や個に応じた指導を可能にした測定器の学習  
～「個に応じた指導」の迅速性や効率性の向上、理解の定着を図る指導～

県立秋田工業高等学校 教諭 眞壁 淳

ものづくり製作では必要な精度に仕上げる場合に測定器が使用される。教員が測定しその方法を解説したり、教室で自作教材を提示したりする場合もある。しかし、個に応じた指導に課題が生じているため、自作ソフトウェアを活用して個に応じた学習を可能にし、効果的な学習を行い、理解の定着を図ることができた。また本ソフトウェアの機能による自動操作履歴により理解度を把握することができ、適切な評価を行うことができた。

② 15:40~16:10

特別支援学校 寄宿舎 生活指導

身だしなみを整える力の向上を目指した生活指導  
～服装に関する知識と技術の習得を目指した取組～

県立視覚支援学校 寄宿舎指導員 佐々木栄大

本校寄宿舎では、昨年度から「身だしなみ」をテーマに研究を行い、今年度は服装に関する取組を行ってきた。支援の手立てとして次の二点を実践した。第一に、「服装に関する知識の習得を促す支援」である。それぞれの見え方に応じた「服装に関するガイドブック」を作成し、活用しながら指導することで知識の習得を図った。第二に、「学び合いを促す支援」である。学習会を通して互いの意見を参考にし、自分の身だしなみへの活用を促した。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55~16:10 I会場 3階 中研修室(1)

### <提案のポイント>

① 14:55~15:25

高等学校 工業  
[日教弘秋田支部研究論文入賞]

主体的・対話的で深い学びを実現する指導に関する実践的研究  
～探究活動におけるサブグループ編成の工夫と認知プロセスを視点とした指導の改善～

県立横手清陵学院高等学校 教諭 加藤 司

探究活動において、①研究に対する生徒の理解等に応じて柔軟に変化するサブグループの編成 ②課題設定、思考、メタ認知等の認知プロセスを視点とした授業改善を行った。その結果、「なぜ」を解決した満足感を感じる生徒が約38ポイント増加、「対話」して主体的に研究を進めた満足感を感じる生徒の割合50%と高い結果が得られた。また、日本学生科学賞への応募や秋田県児童生徒理科研究発表会での発表など、学習意欲の向上が見られた。

② 15:40~16:10

小学校 ふるさと・キャリア教育  
[秋田大学大学院研修]

ふるさと教育の理論と実践に関する研究  
～秋田県における郷土教育及び戦後コア・カリキュラムの教育実践の考察と提言～

大潟村立大潟小学校 教諭 佐藤 淳

本研究の目的は、教育史上における地域を題材とした過去の教育実践を検討することによって秋田県におけるふるさと教育の授業づくりや単元構成、そして実践への示唆を汲み取ろうとするものである。そこで秋田県教育史におけるふるさと教育成立までの歴史的経緯を辿り、これまでの実践を考察することにより、現在に通ずるものや活用できるものを検討する。そして小学校における今後のふるさと教育の具体的な授業の在り方を提案する。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55～16:10 J会場 3階 中研修室(2)

### <提案のポイント>

① 14:55～15:25

中学校 防災教育  
[文部科学省・秋田県教育委員会主催「安全安心は、地域ぐるみで！」～地域連携安全・安心推進事業～]

「安全安心は地域ぐるみで！」  
地域連携安全・安心推進事業  
～「地域を担う自助と共助」地域の一人として考え判断し、行動する生徒の育成～

大館市立成章中学校 教諭 千葉 彦希

『自他の命を守る』という高い安全意識をもった子どもの育成」という本事業の趣旨に基づき、中学校区の保・小、関係機関や地域関係者と密に連携し、老若男女を問わず総勢約500名が参加した避難・安否確認訓練等、地域ぐるみで防災活動を行ってきました。また、総合的な学習の時間を中心に教育課程全体で防災教育に取り組んできました。その中で得た成果や課題、学校が核となり地域と一体となった防災教育の在り方を提案します。

② 15:40～16:10

小・中学校 道徳  
[いのちの教育あったかエリア事業]

体験活動を生かした道徳教育の充実  
～いのちの教育あったかエリア事業の取組を通して～

大仙市立平和中学校 教頭 築地 高

本校は、保護者や地域と一体となった防災教育を学校経営の柱に据え、地域との連携・交流の推進を基盤に、豊かな心の育成に取り組んでいる。今年度は「いのちの教育あったかエリア事業」の指定を受け、様々な体験活動を生かして、「生命尊重、思いやりの心」などを中心に「心の教育」の一層の充実を図った。取組を通して、いのちや思いやりの心の尊さへの意識をますます高めるとともに、自己を見つめ直し、地域の一人としての生き方に思いを寄せる生徒の変容を提案する。

## □頭発表

2月8日(木) 14:55～16:10 K会場 3階 小研修室

### <提案のポイント>

① 14:55～15:25

幼・保・認定こども園等 就学前教育

どきどき わくわく たのしいね  
～子ども一人一人の思いに寄り添う保育を目指して～

潟上市立若竹幼児教育センター  
主任保育教諭 田仲真紀子  
保育教諭 伊藤深有希

保育の資質向上につながるように保育者間で乳幼児理解をめざし、エピソードや写真などをもとにカンファレンスを行う。また、連絡帳やお便りを通して考え合う。成果として、乳幼児理解が保育の基本であり、子ども一人一人の内面を読み取る多様性の大切さを職員間で確認することができた。さらに、子どもたちの姿がいきいきとして感じられ、保育者自身の意欲につながった。また保護者支援にもつながった。

② 15:40～16:10

幼・保・認定こども園等 就学前教育

一人一人が自己発揮しながら、生き生きと遊ぶ子どもを目指して  
～保育の振り返りや日々の記録から幼児理解を深める～

美郷町立仙南すこやか園 保育教諭 寺山 和子  
主任保育教諭 本間 美佳

子どもの内面を多面的に読み取るために、日々の振り返りや記録からカンファレンスを行い、指導計画の改善につなげていった。その中で、PDCAサイクルの「保育振り返りシート」を作成し、週の保育を振り返りながら、課題の明確化と保育者の手立ての共通理解を図った。